



日本共産党
館内 孝夫

窓口業務対応について

質問 別府市役所は、おくやみコーナーという専門窓口を設け、死亡届からつながる各資格喪失届や変更手続きに対して、市民を各部署の窓口に移動させずに、窓口担当者に対応している。

手続きの一元化によって、それにかかる作業時間は3割程度削減されたことや、また市民からは行政手続きの煩わしさの解消につながっているとの声もある。職員側も市民側も互いがよいという状況であり、これは手続き簡略化の成功事例だと思われる。別府市のように同じことは出来ないと思うが、可能な限り市民にとって使用しやすい窓口、可能な限り市民を振り回さない取り組みは必要と思うが本市の考えを伺う。

答弁 現在、本市においては窓口死亡届をお持ちいただいている方のうち8割ほどが葬儀会社であり、また当直で死亡届をお預かり

することも多く、窓口で案内することは少ないです。届けを受けた際には、関係課分を含め各種手続きの内容や印鑑、健康保険証など用意するものと、担当窓口を記載した「ご案内のしおり」を葬儀会社へ託し、遺族に渡していただくようにお願いをしています。遺族にとりましては、死亡届のときより戸籍関係の諸手続きに苦慮されています。添付書類も多く、亡くなった方の出生までさかのぼった戸籍の請求の仕方など、市民課で相談いただくことも多くあり、例えば相続に絡んで1枚の書類で市道民税や国民健康保険税など4つの係の手続きに対応できるように集約して、すでに対応しています。保険医療課や介護福祉課など、次の関係課へ直接案内するケース、身体が不自由な方がお越しの場合、担当課職員が出向くなど、可能な限り市民の負担が軽減されるよう努力をしているところです。

専任職員を配置するまでには至りませんが、先進市を参考に引き続き、遺族の気持ちに寄り添いながら分かりやすい案内に努めていきます。

質問 平成30年度のふるさと納税については、7億円超えの寄付が見込まれています。寄付の使い道として、現在の5項目のほかに、「丸加高原健康の郷の整備（丸加高原伝習館を含む）」を追加し、活用してはどうか考えますが、市長の考えを伺う。

答弁 寄付目的については、もう少し幅広く対応出来るように検討を重ね、7項目から5項目に変更し、まち全般に使えるものや、教育環境、子育て支援分野、まちづくり分野、地域の教育振興、医療環境の充実としています。

特に近年は、まち全般に使える目的を選択する方が圧倒的に多く、いただいた寄付の多くは、行政全般に行き届かせることが可能となっていることから、当面は現在の寄付項目を変更せず、できる限り幅広く対応していきたいと考えています。



会派みどり
木下八重子

ふるさと納税について

北海道滝川市 ふるさと納税（寄付）の使い道

滝川市の豊かな自然や文化・・・まち全般に

未来へはばたく子どもたちを育むまちづくり

豊かな資源を活かした魅力あふれるまちづくり

國學院大學北海道短期大学部の教育振興

地域の基幹病院である市立病院の医療環境の充実

